

CONTENTS

1	FEATURE TOPIC しんゆりエリアの魅力再発見シリーズ⑤ 百合丘エリア
2-3	SPECIAL 百合丘を歩こう
4-5	LOCAL TOPICS・SERIES 街のトピックス・連載
6-7	COLUMNS 暮らしのコラム INFORMATION 街の掲示板・プレゼント・他
8	SPECIAL 新ゆりパンまつり 2023春

FEATURE TOPIC

～しんゆりエリアの魅力再発見シリーズ⑤～

百合丘エリア

地元の人々の力で生まれ、愛され続けるまち



1.「王禅寺見晴らし公園」(百合丘3-14-4)からの眺め。この公園付近はその昔「鍋ころがし」と呼ばれていた。断崖のような尾根道だったこの地で、弁慶が乗っていた馬が足を滑らせ、そのはずみで鞍の後ろに吊るしてあった鍋が断崖に落ちたという。ここからは晴れた日には富士山も望むことができ、美しい夜景を見に訪れる人も多い。

駅の誘致に端を発したまちづくり

現在はUR賃貸住宅やマンション、戸建て住宅、スーパーや商店が建ち並ぶ「百合丘」。川崎市の統計情報によると、百合ヶ丘駅南側の百合丘1丁目から3丁目の人口は9,740人(2023年3月末現在)。この地域は昭和20年代には旧高石の字山後・富士塚・中半郡・半郡・二本松という地名で呼ばれており、起伏の激しい丘陵地帯で農家も数軒しかなかったという。当時、小田急線の西生田駅(現・読売ランド前駅)～柿生駅間には駅がなく、両駅の間を誘致しようという声は昭和26年ごろから高まったのだが、世帯数も人口も少ない当地域では思うように進展しなかったようだ。

状況が一変したのは昭和30年代。日本住宅公団(UR都市機構の前身)が発足し、地主たちの働きかけにより、この地に団地が開発されることが決定した。開発計画には、田畑を失っては生活ができないという理由から反対運動も起こったが、開発を推進する地元の委員会が説得し、昭和33(1958)年から開発工事が始まった。そして昭和35(1960)年3月、同年8

月の百合丘団地の入居開始に合わせて交通手段を整えるため、「百合ヶ丘駅」が開業。商店第1号の「ゆりが丘ストア」(8年後に「スーパーゆりストア」に改称)も同年8月にオープンした。昭和40年代に入ると、大手デベロッパーによる宅地開発も急ピッチで進み、人口はますます増加した。昭和49(1974)年には隣に新百合ヶ丘駅ができ、多摩線も開通。50年代、新百合ヶ丘駅周辺の開発工事が進むにつれ、百合ヶ丘駅周辺の商業施設などの建設計画も活発になっていった。

百人余りが力を合わせてできた「百合丘」

百合丘という町名は地元高石の人々により名付けられた。百合丘の誕生に協力した地主が128人、百人余りが力を合わせてできたので「百合う丘」、すなわち「百合丘」だということ、弘法松付近の山々に百合の花が咲き乱れていたこと、神奈川県の花が山百合であることなどが考慮されたという。

散歩で訪れたい憩いの公園や歴史的スポット

百合丘には「王禅寺見晴らし公園」(写真1)、「弘法松公園」



2.「高石神社」約370年前に始まったとされる伝統行事「流鏝馬奉納の儀」。現在は馬を使わずに立って矢を射る歩射形式で、五穀豊穡や無病息災を祈る。



3.「弘法松公園」かつてここに弘法大師が植えたといわれる松の木があった。



4.「百合丘第2公園」地域の人々の憩いの場。春には桜が咲く。



5.建て替えのため解体が始まったゆりストア。まちの景色はこれからも変わっていく。

(写真3)、「百合丘第2公園」(写真4)、「百合丘第3公園」「百合丘第4公園」など、大小さまざまな公園があり、地域の人々が憩いの場として利用している。また、百合ヶ丘駅北口より右前方に見える、樹木が生い茂った高台の頂上には「高石神社」(写真5)が。江戸時代には「伊勢宮」と呼ばれ、その周辺も「お伊勢の森」と呼ばれていた。正月や毎年成人の日に行われる伝統行事「やぶさめ」の日などには多くの人が訪れるが、普段は静寂に包まれ、凜とした空気が漂っている。

二つの商店会と個性的な店の数々

現在、「百合ヶ丘駅前商店会」の加盟店34店舗と「百合丘中央商店会」加盟店24店舗、その他にも個性的な店・地元愛にあふれる店が百合丘には多数あり、本紙2・3面ではそれらの店の一部を紹介している。先に紹介した公園や歴史的スポットなどとあわせて、ゆっくり巡ってみてはいかがでしょうか。

参考:『マイタウンゆりがおか』(昭和55年8月1日発行号、昭和57年2月1日発行号)、『ゆりストアの歩み』(百合ヶ丘産業株式会社、平成元年5月発行)、『高石、百合丘の資料とアルバム』(高橋妙、平成9年6月発行)

“不動産を売るとき”って、どうしたらいいの？ 専門家に学ぶ「不動産の上手な売り方無料個別講座」開催

5月13日(土)～6月4日(日)開催! 参加無料・要予約
売却のノウハウを専門家が分かりやすく伝授

日本では相続財産の半数以上の割合を占めるのが不動産だそう。分割が難しい土地や建物は相続時の大きな課題の一つ。いざ相続が発生してから不動産を売却しようとしても、思い通りにいかなかったり、時間がかかったりしてしまうケースも見られます。最近では、住む予定の無い実家などの空き家や空き地の売却について悩んでいる人も多いそう。事前にできる準備で労力を軽減し、早めの対策を考えておきたいものです。

そこで、三井住友信託銀行グループの「三井住友トラスト不動産」では、5月13日(土)～6月4日(日)の約3週間、不動産売買の悩みや不安を解決するための「不動産の上手な売り方無料個別講座」を、新百合ヶ丘駅チカの大塚新百合ヶ丘ビルで開催します。

売買の基本から価格査定まで
将来を見据えた賢い不動産売却術

無料個別講座では、不動産売却の契約の流れ、進め方のポイントや注意点、売却にかかる諸経費など、不動産を売るときに事前を知っておきたい知識を分かりやすく解説。さまざまなケースを踏まえ、不動産売却の基礎からノウハウを伝授してくれます。

今や土地や建物の売却は土地活用の選択肢の一つ。多くの不動産売買に関わった専門家から、得する売却・損する売却を学んでみませんか? 不動産の売却について悩んでいる人は、この機会に参加を。不動産の価格査定相談にも無料で応じてくれます。

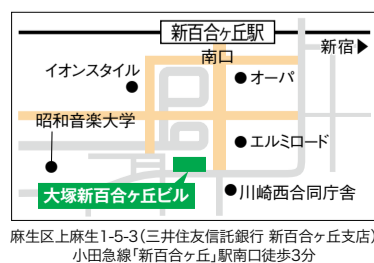


参加者には売買の流れが分かるガイドブックを進呈

不動産の上手な売り方無料個別講座

- 会場/大塚新百合ヶ丘ビル2階会議室 (三井住友トラスト不動産 新百合ヶ丘センター) ※会場内は感染症予防対策を実施
- 日時/5月13日(土)～6月4日(日) ※水・祝定休
①10:00～ ②11:00～ ③13:00～
④14:00～ ⑤15:00～ ⑥16:00～
※希望日時の3日前までにお申し込みください
※相談したい不動産の所在地を伝えてください
- 定員/各日・各回1組
- 参加費/無料(要予約)
- 参加特典/「不動産売買ガイドブック」をプレゼント
- 予約・申し込み/☎0120-661-339

講座事務局
(わかば企画内)
10:00～17:00
WEBの申し込みは
2次元コードから



麻生区上麻生1-5-3(三井住友信託銀行 新百合ヶ丘支店) 小田急線「新百合ヶ丘」駅南口徒歩3分